

～ ゲストティーチャー 来校 ～

12日（木）の4時間目に、国語で学習した「アップとルーズで伝える」の筆者である、中谷日出さんを迎えてお話を聞きました。

中谷さんは、テレビ番組の企画制作をする仕事をされています。4年生が学習した「アップとルーズで伝える」も、元々はテレビ番組のものでした。その番組を見た出版社の人から、声がかかり、教科書にのせる文章を書くことになりました。文章は、1年間かけて考えて完成させたそうです。



アップとルーズをうまく使って伝えるとよいことを体感できるように、芥川龍之介さんの「^{とししゅん}杜子春」の紙芝居を使って説明してくれました。紙芝居は、話を伝えるための絵が限られているので、紙芝居の絵の人物をアップにして表情が分かるようにしてくれました。

それから、4年生から中谷さんへいろいろな質問が出ました。一部を紹介します。

○どうして、テレビの仕事をしたと思ったのですか？

☆テレビでCGを使った映像を作りたいと思ったからです。

○写真じゃなく、文章で伝えるときには、どういう工夫をしますか？

☆文章の中で、（全体）と（具体）の順番が大切です。

○「アップ」はどのくらいにしたらいいですか？

☆伝えたい情報によって決まります。テレビドラマでは、顔全体ではなく目だけをアップにすることもあります。今は、ドローンで撮影する技術ができたので、アップとルーズがつながった表現もできます。

○今の仕事は好きですか？

☆仕事は大好きです。テレビに出るのも作るのも楽しいです。アップとルーズをうまく使って説明すると、みんなから分かりやすいと言われてうれしいです。

質問風景



最後に、文章を考えたりテレビ番組を考えたりするときに使う「企画書」の話がありました。「〇〇がしたい!」と思ったことについて、アップとルーズをうまく使って、伝える相手に分かりやすいように書いているそうです。

中谷さんの体験でラグビーの話がありました。そのときは、試合会場で生で見たけれど、テレビで見た方がルールや選手の様子がよく分かって楽しかったかも・・・と。

最後に、児童代表からお礼の言葉を言いました。

企画書



きかくの名前

まわりのこと

ねらい

内容

目標・結果